

年頭所感

# 始動する成田新時代



成田市長  
小林 攻

## 新年あけまして おめでとーございます

市民の皆様には、平成18年の新春を健やかに迎えのことに、謹んでお慶びを申し上げます。  
昨年の天皇家長女紀宮様と黒田さんとの結婚は、誠に慶賀にたえなく、わたしたち日本国民にさわやかな感動を与えてくれました。また、スポーツの分野では、全国高等学校総合体育大会「2005千葉きらめき総体」における成田高等学校陸上競技部男子の優勝、更に甲子園へと大きく前進した秋季関東地区高等学校野球大会での同校野球部の初優勝など、成田市民にとって夢と希望が大きく膨らむうれしい出来事が続きました。  
わたしも市長就任から2年8カ月が経過いたしました。

この間、常に市民にとって身近な市政、市民の目線に立った市政を推進し、市民の皆様が夢と希望のもてるまちづくりに取り組んでまいりました。



4月には国道51号とニュータウンを結ぶ都市計画道路・郷部線(写真中央)が開通



利根川と豊かな自然に包まれた下総町(写真は滑河駅周辺)



肥沃な北総台地が広がる大栄町(写真は町役場周辺)

おかげさまで公約であった地域ブランドとしての成田ナンバーの創設や市民の足となるバス運行の改善強化に繋がるコミュニティバスの運行が実現いたしました。また、新清掃工場の取り組みをはじめ、安全・安心なまちづくりのための防犯体制強化への取り組みも始まりました。ようやくわたしのまいた種も芽を出し、育ち始めております。

これも市政の各分野で、市民の皆様のおかげで支えていただき協力があったからであり、心からお礼を申し上げる次第であります。

さて、本市は、豊かな緑と水に恵まれた北総の風土に育まれ、日本の空の表玄関と門前町という二つの特色を有する人口10万人の北総の中心

都市として、着実な発展を遂げております。

本年3月27日には、下総町、大栄町との合併により人口約12万人の新生成田市が誕生いたします。この合併により、本市はこれまで以上に大きな役割を担うことが期待されております。

そのような中、新たな時代における新生成田のさらなる発展と市民一人ひとりの幸せを目指すまちづくりの実現に向けて、総合的かつ計画的な市政運営の基本方針として平成18年度を初年度とする成田市基本構想を定めることができました。

この中で、わたしは、『空港(そら)、交流(ふれあい)、希望(ゆめ)』創造都市成田をテーマとして三つの成田の将来都市像を掲げました。

その一つが、「活力にあふれ魅力がある個性ががやく交流都市」であります。

本市は、世界にひらける成田国際空港と歴史と伝統ある成田山新勝寺、宗吾霊堂といった固有の地域資源を有し、合併後は滑河観音、大慈恩寺といった地域資源が加わることとなります。これらの融合と活用を図ることで、成田にしかできないまちづくりを目指してまいります。

二つ目が、「市民と行政の協働のもと夢を育む共感都市」であります。

地域の特色を生かした生活環境の整備を推進するとともに、北総の中心都市にふさわしい都市機能の充実を図ることで、市民一人ひとりが夢と誇りをもち、市民が一体となったまちづくりを目指してまいります。

三つ目が、「緑と水の環境都市」であります。

市民の環境意識の高まりを推進力として、豊かな自然と地域環境を守り育てるとともに、環境への負荷の少ない持続可能な循環型社会の構築を図ることで、地球環境を見つめ、環境にやさしいまちづくりを目指してまいります。

わたしはこれら三つの視点で描く成田の未来を新成田市12万市民の皆様とともにさびに大きく育て上げてまいりたいと考えております。

本年は新生成田のスタートの年であり、成田新時代に向けて決意も新たに、当面する諸課題に全力で取り組んでまいります。

結びに、市民の皆様のご多幸をお祈り申し上げますとともに本年も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさついたします。